

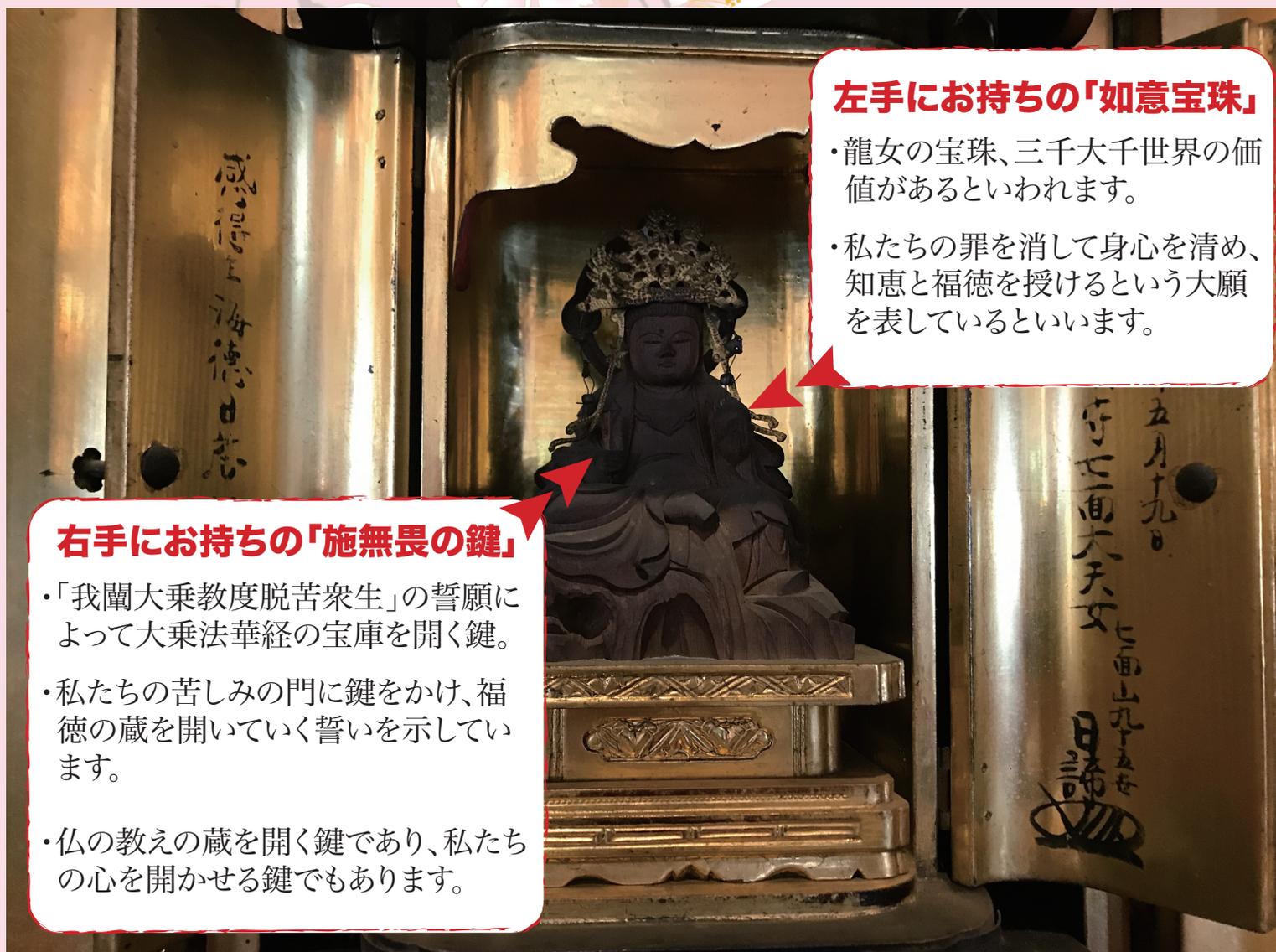
七面大明神の縁起

檀家さんの平方邦彦様より、七面様に関する詳細な資料を頂戴いたしました。過去の文献に依拠しつつ、七面様の縁起やエピソード等をまとめていただきましたので、ここにご紹介いたします。

1. 「七面大明神縁起」

草山元政上人(1623～68年)が『草山集』に書かれたもので、七面大明神について述べた現存する最古の文献です。日蓮聖人と七面天女の出会いについて、次のように書かれています。

日蓮聖人が身延山で説法されていたとき、その中に一人の婦人がいました。立派な衣服や装身具で身なりをととのえ、たいへん上品でみやびやかな方でした。同座して説法を聴いておりました波木井氏は、その婦人が近隣では見かけない人だったので、素性を怪しみました。それを察した日蓮聖人は女性に向かって本形(ほんとうの正体)に戻れるかと問います。女性は一滴の水があれば可能でございます、と答えました。そこで、弟子に花瓶をとらせて女性に与えました。すると、花瓶の水を得た女性はたちまち一丈ほどの赤龍に姿を変え、花瓶に纏(まと)わり、首を矯げ、舌を吐く姿を現わしました。そして、波木井氏に首を向けて凝視しました。波木井氏は恐れ慄きますが、疑いは解消されました。赤龍は元の女性の姿に戻り、自分の師匠は靈山の塔中において釈尊より別命を受けた者であり、自分も仏勅を蒙って護法の神になる者であると述べます。これよりは身延山に水火兵革の難がないようにし、一乗の法華経を信受する者には、その願うことを意のごとく叶えることを誓って去ったとあります。



左手にお持ちの「如意宝珠」

- ・龍女の宝珠、三千大千世界の価値があるとされます。
- ・私たちの罪を消して身心を清め、知恵と福德を授けるという大願を表しているといえます。

右手にお持ちの「施無畏の鍵」

- ・「我闡大乘教度脱苦衆生」の誓願によって大乘法華経の宝庫を開く鍵。
- ・私たちの苦しみの門に鍵をかけ、福德の蔵を開いていく誓いを示しています。
- ・仏の教えの蔵を開く鍵であり、私たちの心を開かせる鍵でもあります。